

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 天王園		
所在地	周南市大字大河内1109番2		
電話番号	0833-91-6739	事業所番号	3577300407
法人名	社会福祉法人 一仁会		

訪問調査日	平成 21 年 5 月 13 日	評価確定日	平成 21 年 7 月 9 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	11 人	常勤 3 人 非常勤 8 人 (常勤換算 7.1 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	~ 1 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 15,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	有 / 無
食費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
その他の費用	月額	23,100 円		
	内訳	光熱水費、日用品費、教養娯楽費		

### (4) 利用者の概要 ( 4 月 26 日現在 )

利用者数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
	要介護 1	1	要介護 4	3	
	要介護 2	3	要介護 5	0	
	要介護 3	1	要支援 2	1	
年齢	平均 84.7 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 佐藤医院、大和病院 歯科 徳本歯科
-------------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)	運営推進会議に地域住民(2名)やボランティア(4名)、社会福祉士、他のグループホームの施設長等、幅広いメンバー構成で多くの人参加され、活発に意見交換し、運営に反映され、協力を得てサービスの質の向上に取り組まれています。一人を外出された利用者への声かけや、事業所への連絡など地域の人々の協力の場面が多くあります。職員の離職もなく、利用者と職員の間、心と通い関係が築かれています。
(特徴的な取組等)	1人の職員が1人の利用者を担当し、担当者が主になって利用者の日々の状況の把握や、家族の意見や要望を聞くなどの連携を図り、計画作成者と共に本人本位の介護計画を作成して、一人ひとりが穏やかに暮らせるよう支援されています。併設の特別養護老人ホームやデイサービスセンター等からの協力を得て、利用者が安全に安心して過ごせるように努められています。

## 【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)	前回の評価結果に対するその後の取組状況 評価結果を全職員で検討され、前回評価結果について、できるところから改善に取り組まれています。第三者委員の選任、明示、家族等への周知など改善されています。
(今回の自己評価の取組状況)	今回の自己評価の取組状況 自己評価書を全職員に配布し、各自が記入したものを参考にして話し合い、管理者がまとめられました。自己評価するなかで、今後の課題として、利用者とのゆとり過ごす時間について、利用者へ寄り添い会話することの大切さを話し合われています。
(運営推進会議の取組状況)	運営推進会議の取組状況 支所健康福祉課長、社協支部長、地域包括支援センター職員、社会福祉士、民生委員(2名)、他グループホーム施設長、自治会長、地域住民(2名)、ボランティア(4名)、家族、管理者、法人団長等のメンバーで2ヶ月に1回開催されています。事業所の行事や状況の報告をし、避難訓練、救急救命講習、認知症講演会、事業所周辺の草刈りなどについて活発に意見交換をして、サービスに活かされています。
(家族との連携状況)	家族との連携状況 毎月、請求書、金銭管理台帳のコピー、近況報告の手紙など同封し送付されています。利用料の支払いに事業所へ訪問した家族へ、利用者の暮らしぶりを伝え、事業所だより(年4回)や写真、関係書類等を直接手渡しし、要望を聞いたり、年2回家族会を開催されるなど、連携を図られています。
(地域との連携状況)	地域との連携状況 法人が自治会に加入し、地域の夏祭り、運動会、カラオケや詩吟の発表会等に参加したり、法人主催の夏祭りに地域の人参加して交流されています。押し花づくりや音楽療法、読み聞かせなどの地域のボランティアの来訪があり、一緒にお昼を食べることもあり、交流を楽しまれています。職場体験としての中学生の受け入れもされています。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「地域に馴染む暮らし」という理念をつくっている。	
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関や事務室に理念を掲示し、勉強会の時に理念について話し合うなど、実践に向けて日々取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の夏祭り、運動会、カラオケや詩吟の発表会に参加したり、法人の夏祭りに地域の人の参加もあり、交流している。押し花絵づくりや音楽療法などの地域のボランティアの来訪があり、一緒に昼食を食べ楽しんでいる。近所から野菜の差し入れがあったり、散歩の途中に挨拶を交わしたり、事業所に話に来る人もあり、交流している。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価書を全職員に配布し、各自が記入したものを参考に話し合い管理者がまとめている。自己評価する中で今後の課題として、利用者やゆったり過ごす時間について、利用者に寄り添い会話することの大切さを話し合っている。前回の外部評価結果について話し合い、第三者委員の選任など、できることから改善に取り組まれている。	
5 (10)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	地域の人やボランティア、第三者委員、他グループホームの施設長など幅広いメンバー構成で2ヶ月に1回開催している。事業所の状況や行事の報告をし、避難訓練、救急救命講習、認知症講演会、事業所周辺の草刈りなどについて活発に意見交換をし、サービスに活かしている。	
6 (11)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の介護相談員(2名)が月に1~2回来訪し、利用者や職員と話し合い、気づき等を市に報告すると共に、市と連携してサービスの質の向上に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、請求書、金銭管理台帳のコピー、近況報告の手紙などを同封し送付している。面会時に事業所だより(年4回)、写真、その他の関係書類等を直接手渡している。家族会を年2回開催し、連携を図っている。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	利用料の支払いのために訪れる家族が多く、その他の面会時も含めて、家族からの相談や苦情を聞く機会があり、意見を運営に反映させている。相談や苦情の受付窓口、担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	行事や状況の変化に柔軟な対応ができるよう勤務の調整をしている。緊急時や職員の急な休みなどには、職員間で話し合い、勤務交代で対応している。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動や離職は少なく、利用者や職員の馴染みの関係が保たれている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修を年4回、毎月1回勉強会を開催し、外部研修への参加の機会も勤務の一環として提供している。働きながらトレーニングできるよう取り組んでいる。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、圏域の連絡協議会にも参加し、情報交換や交流をしている。運営推進会議に他グループホーム施設長が参加して意見交換したり、管理者が他事業所の運営推進会議に出席して情報交換するなど、サービスの質の向上への取り組みをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>利用前に自宅や入所している施設などを訪問し、本人や家族から話を聞いている。事業所を見学してもらい、他の利用者とお茶を飲んだり、職員と会話をするなど、徐々に馴染めるようにしている。併設のデイサービスの利用者や特養からの移設の場合は職員が顔馴染みになるようにし、家族と相談し、納得した上での入居になるよう支援している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>職員は利用者と日々の生活を共にし、利用者がこれまでに培われた知恵や習慣を教わったり、支え合う関係を築いている。よもぎを摘んで草もちを作るときも「怪我をした時、よもぎを揉んで貼るといい」や揉み方など、また、じゃがいもの植え方等を教わっている。事業所の畑で採れたものや近所から大量にもらった大根を使って、利用者全員で切り干し大根を作り、食材にもなり、楽しんでいる。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の関わりの中で、会話や行動から、利用者の思いや意向の把握に努め、個人記録に残し、面会時に家族からも聞きとり、本人本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>1人の職員が1人の利用者を担当し、担当者が家族の意見、要望を聞き、日々の暮らしの中で把握した利用者の思いなどを参考に話し合い、計画作成担当者と共に介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>6ヶ月ごとにモニタリングをし見直しをしている。状態に変化があった場合には必要な関係者と話し合いを行いサービスを行なっているが、新たな計画の作成にはいたっていない。</p>	<p>・現状に即した新たな介護計画の作成</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>受診の送迎と付き添い、お墓参り、他施設入所の家族への面会の付き添い送迎、外食支援など利用者の希望に合わせ柔軟な支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医が全利用者のかかりつけ医となっており、月に1回診察を受けている。主治医の指示で専門医へ受診するなど連携を図り、適切な医療が受けられるよう支援している。併設施設の看護師が健康面の支援をしており、緊急時にも対応している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合について、早い段階から家族や関係者と話し合いを行い、実際に重度化した場合は併設の特別養護老人ホームに移り、適切な支援が受けられるようにしている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシー保護についての研修を行ない、言葉かけや対応に注意している。排泄時にもタオルをかけるなどの対応を徹底し羞恥心に配慮している。個人記録は事務室に適切に保管している。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切に、利用者の希望に添って支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食共事業所で調理し、利用者は準備や後片づけなどできる事を職員と一緒にしている。同じ食事を一緒に食べながら、「 が食べたい」と好みを言われたり、利用者で作った切り干し大根の話題で盛り上がり、食事を楽しんでいた。管理者が管理栄養士であり、配慮した食事作りをしている。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日可能で、個々の希望やタイミングに応じて概ね14時から16時頃に行なっている。入浴を嫌がる利用者には散歩で汗をかくてもらったり、声かけなどに工夫し支援している。併設施設の中間浴を週2回利用できることで、2時間の入浴時間内にゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	押し花絵、音楽療法、読み聞かせ、カラオケ、縫い物、切り干し大根づくり、よもぎ摘み、草もちづくり、餅つき、巻き寿司づくり等の場面づくりをし、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、ドライブに行くなど、戸外に出かけられるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	勉強会で全職員が身体拘束について理解し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故、ヒヤリはっと報告書に記録し、改善策を検討して、全職員が共有している。転倒、窒息、行方不明、火災について学び、ヒヤリはっとの事例で状況を確認し、対応策をたて、一人ひとりに事故防止に努めている。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	勉強会で学ぶほか、年1回救急救命講習会とAEDの研修を受講している。	
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	月1回、防災訓練を実施している。年1回法人全体の総合避難訓練が行なわれ、地域の人々の参加もある。避難時に砂利道で危険だった箇所には、地域の人からの提案でセメントで舗装するなど、地域との連携が図られている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	「入居者の薬」ファイルで薬の情報を確認し、共有している。薬は手渡し服用を確認している。必要な情報は看護師に報告し、看護師から主治医にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	一人ひとりの状態に合わせ、自分でできる利用者には声かけで、出来ない人には口腔内ケアブラシを使って口腔ケアの支援をしている。就寝前には必ず全利用者が口腔ケアをするよう特に気をつけている。歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士(管理者)が献立をたて、食事量を給食日誌に記録し把握している。水分量は必要な人のみ記入している。一人ひとりの状態に合わせ、食事形体(ミキサー、きざみ、おかゆ)を変えて支援している。栄養バランスの取れた食事を提供している。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、予防や対策を検討して、毎朝、ホール、トイレの手すり、ドアノブ等の消毒、手洗いなど、予防を実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間は明るく、季節の花が生けてあり、利用者の作品(押し花絵等)が飾られている。中庭にはツバメが巣をつくり、毎年の楽しみになっている。調理の音や匂いがし、不快な音や光、匂いはなく、季節感、生活感を感じながら、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内の家具は全て持ち込みで、ベット、鏡台、タンス、仏壇などが置いてあり、居心地よく安心して過ごせるよう工夫している。	

## 自己評価書

### 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム天王園
所在地	周南市大字大河内1109番地の2
電話番号	0833-91-6739
開設年月日	平成 14 年 12 月 1 日

### 【実施ユニットの概要】 ( 4 月 20 日現在 )

ユニットの名称	グループホーム天王園			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	1	要介護 4	3
	要介護 2	3	要介護 5	0
	要介護 3	1	要支援 2	1
年齢構成	平均 84.7 歳	最低 71 歳	最高 94 歳	

### 【自己評価の実施体制】

実施方法	1)職員各自に全項目をコピーして渡し、各自で検討してもらい回収して管理者がチェックする 2)職員気づき会議において、問題点、改善方法等を話し合う 3)自己評価表を作成して園長に提出し承認を得る
評価確定日	平成 21 年 4 月 27 日

### 【サービスの特徴】

同一敷地内に特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、介護支援センターが併設されており、介護面、医療面に置いて協力体制が出来ていいます。花見、ドライブ、日帰り旅行などでは地域の方、ボランティアの方、ご家族の方々のご協力をいただき安心、安全を心掛けて四季折々の自然を楽しんでもらっています。児童クラブ、音楽や押し花教室などボランティアの方とのお楽しみの時間も取り入れています。地域密着型のグループホームとして認知症の方々への理解を深めていただく努力もしています。職員の異動も少なく、入所者やご家族とも馴染みの関係が出来ています。

# 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p><b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
7 (3)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		今年地域での「敬老の日お祝い」の会に出席したい
8	<p><b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		役立つ事は出来ないが、地域の高齢者の方との時間を大切にしてあげる援助

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	各自で自己評価をして気づき会議で検討し理解を深めた結果についても話し合い改善策を考える	
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	連絡会議も2年目となり、委員の方からの意見も活発になる様になった 避難訓練、救急救命講習、認知症講演会、ホーム周辺の草刈等について委員の方々と話し合いながら決めた	今年度からは職員も交代で出席の予定(司会、書記、他もう一名)
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	必要に応じて対応してもらっている	今まで通りでよい
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	権利擁護利用者が1名あり、担当者とは常に連絡を取り合っており当事者の援護に努めている 職員には気づき会議において勉強の機会を設けた	
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修会等に参加し気づき会議にて複伝している お互いに入浴等において入所者の身体確認を行い防止に努めている	
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族と良く話し合い十分に理解いただける様に努めている	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの訴えは「帰りたい。外に出たい。物が取られた」等が多いが、職員はしっかり聞いて対応出来る体制にあると思う 入所者も職員に不満を感情のまま表す	「主人、子供の墓参りがしたい」の訴えに応じる準備は出来ている
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月利用請求書を送付する時に、状況報告、金銭管理台帳コピー、相談事等を個々に報告している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	日々の状態を記入した情報はいつでも開示の対応が出来る体制にある 年2回の家族会の時に個々の部屋に置いて見てもらっている		
18 (8) <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族からの訴えに対しては誠意を持って相談に応じ、施設長の判断を受け運営に反映している 施設内で処理できない時は外部機関(苦情解決第三委員)での処理を明確にしている		
19 <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回気づき会議を設けお互いのコミュニケーションを図っている		以前に比べて具体的な意見交換が出来るようになった
20 (9) <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	対応出来ている 家族が入院、退院時に付き添えない場合は職員が対応して行ける様に配慮している		
21 (10) <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	今の時点に置いては職員の交代も少なく馴染みの関係が取れている		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	出来る限り研修機会を確保するように努めている 法人内でも認知症の勉強会が行われている		
23 <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	交代職員も少なく入所者の方々とは馴染みの関係になっており、入所者の情報も多くあり暮らしに対応出来ていると思う		
24 (12) <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	施設訪問は受けたがこちらから訪問する機会はなかった 管理者、職員とも研修会で会った時に状況を聞いたり、相談し合う事はある		出来る限り研修会の機会を確保したいと思うが、勤務時間の都合等により困難な事も多い

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	出来る限り職員も楽しめる行事を取り入れて気分転換が図れるように努めている		
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	勤務状況を把握し、改善点については勉強会で皆で話し合いをしている 国家試験で頑張った職員には温かい声掛け、次ぎえの支援をしている		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	評価されていると思う		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	面会は行って入所してもらおうが、なかなか本人から直接要望を聞いたり不安を取り除いてあげる事には時間が掛かるが、入所者の方に寄り添った介護に努めている		
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	家族の方からは入所者の状況、困っておられる事をよく聞いて入所されても安心していただける様に努めている		
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所待ちの状態である事を説明して、まず申し込み手続きをしていただく。他の施設も紹介している		
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	当入所の場合は、本人、家族の方に施設訪問をしていただき様子を見てもらっている。隣接の特老に移設の場合は散歩がてら施設内を回って職員の方に顔を覚えていただく様にしている 家族の方と良く相談し納得した上での入所、移設となっている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入所者の好み(散歩、園芸、塗り絵、歌、、、等)を把握して個人対応に努めている 又、入所者の訴えに傾聴し共に生活している環境作りに努めている 入所者から学ぶ事は多い		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人からの希望に対して施設で出来る事には個人対応している(買い物、針仕事、お墓参り、、、等) 家族の方には面会に来られた時に聞くようにしているが「今のままでいいです、、、」と。個人々のケアについては職員と話し合っって介護計画を作成している	
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画のケアについては見直しを行っているが、介護計画作成はなかなか追いつかない 今回は数人ずつモニタリングを行った	これからも出来る限りモニタリングを行いたい
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の個別ケアの状況、様子観察を個人ファイルに記録して共有している	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入所者からの要望として「ドライブしたい、 が食べたいな、 に又連れて行ってな、、、」可能な限り対応している 家族からの要望として「病院受診、権利擁護担当者との対応等」柔軟に対応している	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員、ボランティアの協力体制ある(外出行事、ホーム内でのお話し、押し花、、、等) 消防署からは年に1回救急救命の講習をホームで行っている 文化関係では詩吟、カラオケ同好会の方からお誘いを受けている	
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	地域に開放できる体制はとっている(時々通りががりに立ち寄って下さる) 家族、ボランティア等の見学は常時受け入れている	
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	していない	必要があれば行う

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーの保護に十分配慮している</p> <p>声掛けに置いてはプライバシーを損ねる様な言葉掛けもある</p>	<p>理解はしているが、馴染の関係が出来ているが故に出る言葉もある</p> <p>その場に居たらすぐに注意するようにしている</p>
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>出来る限り衣服等については自分で決定してもらっている</p> <p>衣類購入に行った場合は自分でまず決めてもらう</p> <p>なるべく入所者の理解度に合わせた説明をして、自分で決めてもらう様にしている</p>	
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>出来る力を大切にしている</p> <p>野菜の下処理、食器洗い、食器の片付け、配膳、下膳、フローア掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、ごみ包み用新聞たたみ、廃布作り、、、等</p>	
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>朝は職員の1日の仕事が集中するので職員側の都合を優先しながら手伝ってもらう</p> <p>10時以降3時頃までは利用者との時間を大切にしている</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問美容を受けている</p> <p>髪型は本人に聞いている</p>	
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>好みを聞いている 「 が食べたい」の訴え出るようになった</p> <p>一緒に食事の支度をしている</p> <p>食事と一緒に食べながら見守り介助をしている</p>	
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>日常的に楽しめるようには支援していない</p> <p>お酒は新年会、ビアガーデン、忘年会に出している</p>	
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>出来る限り紙パンツ使用を減らす様に勉強会で話し合っているが、個々の排泄パターンをしっかりと把握しての介護支援は出来ない</p> <p>必要な方には排泄表を記録して対応している</p>	<p>10時、12時、3時、5時(日勤帯)をめどに排泄誘導をしている事は続けたい</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	自分で入浴時間を決定できる入所者には希望に合わせている 基本的には毎日行っている		
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	安心して気持ち良く休息したり、眠れるように配慮している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	毎日の生活の流れが理解できる入所者には支援している 生活歴や力を生かした支援として、切干大根作り、餅つき、巻き寿司、等で活動の場を作っている		
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を所持したい入所者はあるが盗られ妄想があり所持してもらう事は困難 お接待に行かれた時、チャリティショーに行かれた時は自分からお金を入れてもらう		
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	その日の希望に添ってはなかなか出来ないが、散歩や、ドライブ買い物などを楽しんでもらう様にしている		
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	出来る体制は整えている(お墓参り行きたいと言われる方の家族から了解をもらっている) 家族との外出は温かく見守っている		日勤者が一人増えたので機会を作って行きたい
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	支援しているが、度々電話を掛けたがられる入所者に対しては(家族はない、兄弟の方は迷惑に思われる様子もあるので月に1回位ならと了解をもらっている)電話を掛けた日は連絡帳に記入して職員共通理解のうえ対応している		
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも受け入れ態勢を整え、入所者と安らぎの時間を過してもらえる様にしている		
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	いつでも希望があれば対応できる		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		職員は理解しているが介護上に置いてやむ負えない場合は家族の了解を得て車椅子抑制ベルト、ベット柵を利用している
75 (28)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		職員は理解しているが常時徘徊があり、職員の目が届かない時間帯は鍵を掛けている(夕方5時30分から朝まで)
76	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		職員同士で声掛けを行いながら入所者の所在や様子観察、安全面に配慮している
77	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		個人の私用物で危険な物はまず本人に了解をもらって取り除く。しかし、本人がどうしても渡されない時は職員二人で室に入り取り除く様にしている 全体的な物は危険を感じた時に取り除くにしている
78 (29)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		看護師に転倒した時、窒息した時の対応、応急処置について話してもらう機会を作っている 吸引機を設置し職員いつでも、誰もが対応出来る様にしている 毎月防火訓練を行っている
79 (30)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		リスクマネジメントに添って勉強会を行っている 又、救急救命講習で初期対応を受けている
80	<b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		事故報告書、ヒヤリハット報告書を共有し常に閲覧出来る所に置き勉強会等で事故防止の為に話し合いをしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	日頃より地域の方に協力が得られる様をお願いをしている	
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	起こり得るリスクについては出来るだけ家族の方にお話して理解をいただきながら、入所者の方が不快にならない様に努めている	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化に気が付いた時は速やかに看護師に報告し対応する 職員は常に情報を共有する事に努める	
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	入所者の服薬管理簿を作成していつでも閲覧でき確認出来る様にしている 必要な情報は必ずフィードバックしている	
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便に関しては排便チェック表で確認する 食事による工夫としては繊維の多い物を取り入れるようにしている	
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	自分で出来る入所者には声掛けをして、出来ない入所者にはハミングッドでケアしている 義歯は毎週日曜日に洗浄液につけて消毒している	
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量については体重オーバーの方もあり配慮する様には気を付けているが、本人の気持ちから出る言葉に困惑する水分量はおおむね良いと思う	
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し予防、対応の取り決めをしている 毎朝ホール、トイレの手すり、ノブを消毒液で拭いている	
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は近くの業者から安全で新鮮な物を仕入れている 「野菜類の入荷日が分からないので、古いものが残っている時がある」の意見が出たので入荷日に日付の記入をする様にした	気づき会議での意見を取り入れた

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホーム前の花壇には四季を通して花が咲いている様に努め、近所の方も足を止めて見ていただける様に努めている 洗濯物干し場、非常口を出た辺りを舗装した	
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	四季折々の花をホール内、各室にも生けて季節感を取り入れている 雛壇飾り、クリスマスツリー、毎月行われる押し花教室の季節感ある作品を掲示している 夏日の日差しをさえぎ工夫に朝顔の鉢植えを作っているが、その鉢の水遣りは入所者の仕事になっている	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	和室にソファ、廊下、玄関に長椅子を置いて入所者が思い思いの所で過せる様にしている 居室での食事もある様にしている	
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には本人馴染の物を持参してもらっている ADL自立の方は少し位バラバラでも自分流に行ってもらいが、季節事の入替えの時は職員が手伝う 又、家族の方に手伝ってもらう事もある(盗られ妄想のひどい方)	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	排泄臭については直ぐに換気し、消臭液を散布する 定期的に消臭剤を交換している 温度調節も状況に応じた対応で配慮している	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	ホール内、居室には入所者の状態にあった手すりを設置している トイレ、風呂場にも安全と自立保持の為に手すりを設置している	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入所者の状態を常に把握しながら事故のない様に、又、混乱しない様に、職員間でも入所者の状況を報告しあって対応に当たっている 混乱を防ぐ為に入所者の仕事の分担を決めている	
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外に長椅子を出してお花を見ながら歌を歌ったり、日向ぼっこをしている 春には特老、デイサービスの利用者の方達とチューリップ祭りを行っている	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	<input checked="" type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	<input checked="" type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない